

# 教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	アナミズ ユカリ	所 属	保育学科		
氏 名	穴 水 ゆ かり	身 分	准教授		
学 歴					
年 月	事 項				
1993年3月	北海道教育大学旭川校教育学部養護教諭養成課程 卒業 学士(教育学)				
2008年3月	北海道大学大学院教育学研究院(博士前期課程) 修了 修士(教育学)				
2021年3月	北海道大学大学院教育学研究院(博士後期課程) 単位取得退学(学位取得は2024年3月25日付の予定)				
職 歴					
年 月	事 項				
1993年4月	北海道 上川北部農業改良普及所 改良普及員(生活)				
1994年4月	美深町立恩根内小学校 養護教諭				
1995年4月	北海道えりも高等学校 養護教諭				
2001年4月	北海道札幌平岡高等学校 養護教諭				
2011年4月	北海道平取高等学校 養護教諭				
2016年4月	北海道北広島高等学校 養護教諭				
2018年4月	釧路短期大学 幼児教育学科 専任講師				
2021年10月	拓殖大学北海道短期大学 保育学科 准教授 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目(2023年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
保育と教育の心理学	101 教室	前期	木	3	
保育内容Ⅱ(人間関係)	302 教室	後期	金	3	
総合芸術	乳幼児保健実習室	後期	月・金	5	担当者複数(30コマ担当)
保育実習指導Ⅲ	302 教室	前期	火	3	担当者複数(8コマ担当)
心理学	303 教室	前期	木	4	
領域人間関係	201 教室	前期	月	5	
子ども家庭支援の心理学	302 教室	前期	金	1	
日本酒学	101 教室	後期	金	3	担当者複数(1コマ担当)
<通年>					
保育実習指導Ⅰ(1年対象)	302 教室	通年	金・火	3/2	担当者複数(20コマ担当)
保育実践演習	102	通年	火	2/4	
キャリアスキル	302 教室/ パソコン室	通年	月/木	2/5	担当者複数(15コマ担当)
保育実習指導Ⅰ(2年対象)	302 教室	通年	金/木	4/3	担当者複数(28コマ担当)
保育実習ⅠⅡⅢ		通年		実習期間	学科専任教員全員 (主担当:福祉施設)
教育実習<実習>		通年		実習期間	学科専任教員全員
4 教科書、教材の作成状況 (記述式:300字以内)	<p>各授業では複数のテキストをもとに作成したプリントを用意した。説明は、パワーポイントで作成したスライドを中心として行った。視覚優位者と聴覚優位者の双方にとって参加しやすいように、基本的にはプリントとスライドの内容は同じものとした。この他、理解を深めるための補足資料として、スライドでは図表やイラスト、映像等を提示した。ケース検討の際も、事例をスライドで提示して説明した上で開始した。プリントは授業のポイントを把握するために適宜、穴埋めにして学生に記入させた。</p> <p>また、演習では必ず自分の考えをプリントに記述し、その後、他学生と議論をして多角的な視点とともに考えを深め、そこで得た新たな見方や考え、教員の解説をさらにプリントに書き込むよう指導した。</p>				
5 学生の指導(課外活動・ 厚生補導等) (主要10件以内)	2018年~2021年 釧路短期大学 学生相談員				

6 その他 (主要 5 件以内)	2021 年	教員免許状更新講習第Ⅱ期対面講習 (北海道教育大学釧路校会場)
	2021 年	教員免許状更新講習第Ⅱ期対面講習 (帯広商工会議所会場)
	2021 年	駆け込みシェルター研修会 (釧路)
	2022 年	沼田町ファミリーサポートセンター援助会員養成講座
	2023 年	空知管内高等学校副校長・教頭会研修会

### 研 究 業 績

1 研究分野・活動 (記述式：350 字以内)	<p>これまで児童生徒の問題行動について、発達差・性差に視点を置いて研究してきた。今年度提出した博士論文では、児童生徒の自傷行為をテーマとして、(1)発達差・性差という視点から自傷行為(以下、自傷)の実態と関連要因、及び(2)児童生徒の自傷行為に対する養護教諭の認識と対応について調査・検討し、それらを踏まえて学校における望ましい自傷対応について議論した。</p> <p>また、複数の他学の教員や福祉施設職員と共同で、学生の「死生観」をテーマに調査研究を開始した。いずれ授業カリキュラムを作成し、学校現場で授業活動を行う。3年計画で実施する。</p> <p>ゼミナールは、学生各々が自分の興味関心に合わせてテーマ設定をし、調べたことを発表して議論した。この他には映画等をもとに、精神疾患、発達上の問題や心理、社会的養護等について解説した。</p>
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350 字以内)	<p>(1)「児童生徒の自傷行為の発生要因と保健室を中心とした学校対応」 上記タイトルの博士論文は2月に提出、3月に学位取得予定である。今後は未公開研究を学術誌等に投稿する一方、研究対象を保健室から一般教師や管理職を含む学校全体のものとする予定である。</p> <p>(2)学生の「死生観」について 医療従事者となる看護学生や教員養成校、保育者養成校の学生の死生観について、その実態と関連要因について調査・検討する。現在は予備的調査を進めているところで、新年度にはさらに調査対象校を広げて、データを増やす予定である。</p> <p>(3)「死の準備教育」カリキュラムの作成について (2)に関連して、学生の実態をもとに、「生と死」を扱う医療従事者、「生と死」を教える保育者・教員となる学生を対象とした「死の準備教育」カリキュラムを作成する。</p>
3 研究助成等 (主要 5 件程度)	<p>(1)文部科学省科学研究費 平成 23 年度科学研究費補助金 (奨励研究) 日本学術振興会</p> <p>(2)学内 令和元年度釧路短期大学特別研究費</p> <p>(3)学外</p>
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	<p>資格：2003 年 9 月 養護教諭専修免許状 (平 14 養専修第 0010 号・北海道教育委員会)</p> <p>資格：2004 年 7 月 小児 MFA インストラクター (200664・Medic First Aid 社)</p> <p>資格：2021 年 2 月 公認心理師</p>

著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(著書)				
思春期の発達とこどもの問題	共 同 執筆	2016 年	札幌子ども・若者白書	思春期の思考の発達が、自己肯定感や自尊心の低下にどのように影響するのかについて述べた。さらに思春期の発達に関連して自傷・自殺等の内的攻撃性による問題行動について指摘し、教育のあり方について提言した。 (加藤弘通・穴水ゆかり)
子どもの成長を支える発達教育相談	共著	2017 年	北樹出版,	自傷対応において重要なのは自傷をやめさせることではなく、本人が抱えている問題や困難の軽減であると説明した。最後に、本人や周囲の子どもたちが大人に援助を求められる関係性を日頃から築いておく必要があると述べた。 (コラム「自傷行為とその対応」を担当)
(学術論文)				
自傷行為の視点から見る高校生の心性 (第 1 報) (査読付)	共著	2010 年	思春期青年期精神医学 20(1)	高校生を対象に質問紙調査を行い、自己切傷経験者の心性の検討を試みた。その結果、自傷経験は生徒の 9.5%で女子では男子の 2.6 倍みられた。自傷生徒の依存形成の生じやすさや精神的な脆弱性に対する広い理解と、支援方法の開発を急ぐ必要があると考察した。 (穴水ゆかり・田中康雄)

自傷行為の視点から見る高校生の心性 (第2報) (査読付)	共著	2010年	思春期青年期精神医学 20(1)	高校生を対象に質問紙調査を行い、自傷経験者の心性の検討を試みた。その結果、重篤化、習慣化、嗜癖化した自傷行為と解離傾向との密接な関係等が示された。また、集団生活や家族・家庭環境に充実感をもつ自傷経験者からは、対他的過剰適応傾向の強さが示唆された。 (穴水ゆかり・田中康雄)	
自傷行為の視点から見る非行化した少年の心性・自傷行為の視点から見る高校生の心性・第3報 (査読付)	共著	2011年	思春期青年期精神医学 21(1)	高校生と少年院在院者の質問紙調査データを比較検討した。その結果、高校生と少年では自傷へ至る経過や、解離にかかわる特性が異なる可能性が考えられた。結果をふまえ、安岡(2008)による「手首自傷の症状機制」モデルに検討を加えた。 (穴水ゆかり・田中康雄)	
教育現場における自傷児童生徒支援の課題について -文献レビュー- (査読付)	共著	2017年	北海道大学大学院教育学研究院紀要 129	学校現場の自傷支援において検討すべき課題を示した。自傷行為の定義や実態は研究により大きな幅があること、このために見逃される自傷がある可能性があること、教員は自傷の背景にある問題に気づき対応することが重要であること、今後は教員への実態調査や、発達差に留意した研究が必要であること等を指摘した。 (穴水ゆかり・加藤弘通)	
高校生における自傷行為とその背景要因の検討 -学校環境、家庭環境、過剰適応傾向の観点から- (査読無)	単著	2021年	釧路短期大学紀要 48	高校生の自傷経験とその方法に主眼を置き、背景要因について検討した。自傷念慮及び複数回の自傷経験には親・保護者との関係がネガティブに影響した。女子は自己切傷、男子はより周囲から発見されにくい「殴る」自傷のリスクが高かった。	
小学生および中学生の自傷念慮・自傷行為経験の実態：性差・発達差に注目して (査読付)	共著	2023年	臨床心理学 138	小学4年生～中学生の児童生徒を対象に質問紙調査を行い、自傷念慮及び自傷経験率の性差と経験率の変化について検討を試みた。自傷行為が増加する時期など自傷の様相には男女それぞれで異なる変化を示す可能性があることが示された。 (穴水ゆかり・太田正義・加藤弘通)	
児童生徒の自傷行為の発生要因と保健室を中心とした学校対応 (学位論文)	単著	2024年	北海道大学 (未公表)	発達差・性差という視点から自傷行為の実態と関連要因、及び児童生徒の自傷行為に対する養護教諭の認識と対応について調査・検討し、それらを踏まえて学校における望ましい自傷対応について議論した。	
(その他)					
COVID-19 感染拡大期における施設保育実習及び学内実習に関する一実践	単著	2022年	釧路短期大学幼児教育学実践報告書第4号	COVID-19 感染症流行に伴い、多くの福祉施設では実習生の受入が中止になった。このため半数以上の学生が実習期間を短縮することになったため、実習の代替として学内で授業等を行った。そのカリキュラムを紹介・報告した。	
学生は施設実習で何を学び得たのか -COVID-19 感染拡大期における実習後のアンケート結果から-	単著	2022年	釧路短期大学幼児教育学実践報告書第4号	感染症流行の影響により、実習期間や内容を大幅に変更した2020年度の施設保育実習について、学生に対する調査から、学生の学びの成果と指導の課題について検討した。今後の課題として遠隔による授業内容の充実等が考えられた。	
(翻訳)					
「発達心理学再入門ブレイクスルーを生んだ14の研究」 (監訳：加藤弘通・川田学・伊藤崇 担当：『12 攻撃性：バンデューラのボボ人形研究の再検討』)	共訳 (分担)	2017年	新曜社, Lansford JE.: Aggression: Revisiting Bandura's Bobo Dolls Studies. In Slater AM., & Quinn PC. (Eds.) Developmental Psychology revisiting the classic studies, SAGE, 176-190, 2012	監訳：加藤弘通・川田学・伊藤崇 担当：「12 攻撃性：バンデューラのボボ人形研究の再検討」 最初にバンデューラの「ボボ人形研究」の概要を説明し、本研究が攻撃性の発達研究に与えた影響の他、本研究の倫理的問題や妥当性等に対してのちに生じた疑問や批判についても議論した。最後に研究の意義について述べた。	
研究業績 (過去3カ年分)				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	2	1	2	無	有

学内運営業績		
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2021 年度、2023 年度	図書委員会
	2021 年度～2022 年度	学生・地域国際交流委員会
	2022 年度～2022 年度	入試委員会
	2022 年度～2022 年度	就職委員会
	2022 年度～現在に至る	紀要編纂委員会
	2022 年度～現在に至る	衛生委員会
学外活動業績		
1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通じた活動 (主要 10 件程度)	2019 年度～2020 年度	北海道教育大学附属釧路小学校 スクールカウンセラー
	2019 年度～2021 年度	釧路市立高等看護学院 スクールカウンセラー
	2019 年度～2021 年度	北海道霧多布高等学校 スクールカウンセラー
	2020 年度	釧路まりも学園 心理判定員
	2020 年度	釧路子ども読書活動推進計画策定委員会委員
	2022 年 12 月～現在に至る	北海道教育カウンセラー協会事務局・子育て支援専門部会副部長
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	(1)学会・学術団体等役職	
	2003 年 3 月～2006 年 8 月	日本学校保健学会会員
	2003 年 3 月～2008 年 8 月	日本思春期学会会員
	2008 年 3 月～現在に至る	日本思春期青年期精神医学会会員
	2014 年 4 月～現在に至る	日本学校保健学会会員
	2014 年 4 月～現在に至る	日本思春期学会会員
	2016 年 2 月～現在に至る	日本教育心理学会
	2023 年 2 月～現在に至る	心理科学研究会員